

私は 8 月の終わりにカナダのバンクーバーに到着し、そこから 10 か月の留学生活が始まりました。現地で最初に買ったものは 500 円のマフラーです。気温は 20 度ほど、周りにタンクトップ一枚の人すらいたのですが、40 度近い日本の夏から飛び出してきた私にとってはとても寒く、大きなカルチャーショックでした。

私が滞在したのはバンクーバーからフェリーで 40 分ほどの場所にある小さな港町で、その町の Elphinstone Secondary School という学校に通っていました。この学校には中学 2 年生から高校 3 年生の約 580 人の生徒が在籍しています。私は Grade 11 という日本でいう高校 2 年生の学年に編入しました。バンクーバー付近の学校には比較的留学生が多く、日本人も複数人在籍している傾向にあるのですが、私の学校は留学生が少なく 1 学期には 8 人ほどしかいませんでした。そして、留学生活で初めにぶつかる壁は友達作りの難しさです。私は、留学が始まる前に何度も何度も、初日はこうやって話しかけよう、こんな子がいると良いな、とシミュレーションという名の妄想をしていました、、、。1 学期が始まる数日前に、留学生だけが集まるオリエンテーションがあります。私にとってそれが今まで何回も想像していた友達作り作戦の決行初日でした。その日のことは今でもよく覚えています。まず、スクールオフィスの前に集まっていた留学生のグループのところへ行き、ワクワクと不安な気持ちを抱えながら挨拶をしました。そのあと、なんとか話を続けようと思い、部活はなにをしていたの？という質問をしました。ここで、私は自分の英語力のなさを実感することになります。彼女らは何かを答えてくれたのですが、私は全く聞き取れなかったのです。おそらく、とても難しい単語や文法があったわけではありません。ただ、私にとって彼女たちのしゃべるスピードが速すぎたのです。一度、聞き返したのですが、それでも理解できず、私はただわかったふりをして頷いてしまいました。しかし、もちろんそこから会話は発展しません。仲良くなるためには少なくとも、相手に質問をしたり、相手の話に何かコメントをしたりする必要があります。英語のリスニング力が足りない状況ではコミュニケーションを取るのとはとても難しいです。そして、この状況は英語に耳がなれるまで 3、4 ヶ月ほど続き、とても苦しいものでした。しかし、何を言っているかわからなくても話に入ろうとする”勢い”が大切です。共にご飯を食べることなどを通して、耳を慣らしていくことができます。初日に留学生のグループに入れたことはとても大きく、11 月にあった私の誕生日パーティーに招待したり、バンクーバーへ遊びに行ったり、一学期の終わりにはビーチでパーティーをしたりなど、とても楽しい思い出を作ることができました。ちなみに、その誕生日パーティーでは手巻き寿司とたこ焼きを作ったのですが、ついでに作った納豆たこ焼きがとても不評でした。

また、カナダの学校のシステムは日本のものとは大きく異なります。基本的には 2 学期制であり、Grade11 では一つの学期につき 4 つまでクラスを選択して受けることができます。

座学だけでなく、料理やアウトドアに教育など日本にはない科目もあります。私は1学期に化学をとっていたのですが、最初はリスニングができない上に専門用語が多く、学校ではただ板書をして家にかえってから日本語で学び直す必要がありました。先生が宿題の指示をしても気づくことができず、授業の後に先生やクラスの友達に毎回確認をしていました。授業の内容は化学基礎で習うものと似ていて、mol やルイス構造式、有機化学などを取り扱いました。時々、実験などを行いレポートを提出する課題もありました。テストは、单元ごとに小テストがあり、学期の終わりに総合テストがあったのですが、ウェイトは低く、そこまで負担ではありませんでした。2学期に取った English のクラスではカナダの歴史について学んだり、小説を一冊よんだりしました。また、シェイクスピアも取り扱ったため、古い英語も学ぶことができました。とても難しかったのですが、後で確認してみるとカナダ人の友達もあまり理解できていなかったようです。また、学校には、4つのシーズンごとに違うスポーツクラブがあり、文化部では模擬国連やバンドクラブ、フィルムिंगのクラブなど一年中やっているものもありました。しかし、誰にもどんなクラブがあるのかなどは教えてもらえないため、自分で先生や現地の生徒のところへ行き、興味のあるクラブを探す必要がありました。

私のホストファミリーは、ホストマザーと一つ下のシスターの2人暮らしでした。留学生を受け入れることは初めてだったそうで、ホストマザーとは一緒に料理やハイキング、映画鑑賞などをして良好な関係を築くことができました。とても優しく、送り迎えを車で何回もしてもらったり、家に友達を招待したり、時にはお泊まり会をさせてもらったりと、とても良くして頂きこれ以上ない程に感謝しています。マザーが忙しいときは私が夕飯を作ることがあり、料理のスキルはとても役に立ちました。また、洗濯は週に一回ほどでまた、シスターと共用していたバスルームや部屋の掃除なども全て自分で行っていました。家事は自分で行う必要があり、これは大きな成長に繋がったと感じています。ホームステイ中にひとつだけ大変なことがありました。それはホストシスターとの関係作りです。始めの方では私がシスターの英語を全く聞き取れず、コミュニケーションもなかなか取ることができず、お互いにイライラしてしまうことが多くありました。一度シスターがゴミ出しをして、と言っていたのですが、そのリサイクリングという単語が中々聞き取れず、サイクリング？となんども聞き返してしまい、全く会話が成立しないことも多々ありました。また、家ではシスターとマザーが良く喧嘩をしていて、彼女は部屋にこもっていることが多かったこともあり、数ヶ月が経っても顔を合わせるのが気まずいと感じてしまっていました。何とかもう少し仲良くならなければ、と思いコミュニケーションを試みましたが、から回ってしまい難しい関係性が続きました。しかし、ある時エージェントの方にアドバイスを頂きました。仲の悪い姉妹もいるし、気の合わない友達もいる、だから無理に仲良くしようとする必要はない、というものでした。その言葉を聞いた時、ふと体が軽くなりました。その後は、無理に頑張る必要はないと考えることができ、また、私の英語の上達もあり友達、というほどではないですが連絡を取り合う程度の関係性を築くことができました。

留学していた10ヶ月間は、私の人生の中で最も新鮮で多くの経験をする事ができた時間だと思います。学校で習うものとは異なる、実際に会話で使う英語を上達させることができ、また、将来の展望も変わりました。大学のときではなく、高校で海外留学を経験することはより自分の可能性を広げると思います。次世代リーダー育成道場は、手厚い事前学習プログラムがあり、また、東京都からの金銭的支援をうけて留学を経験することができます。ぜひ、海外に興味のある方は一歩踏み出してみてください！

